

# CSR通信

平成20年7月4日

## 「ニゴロブナの放流」「ビオトープづくり」に助成金を贈呈 ～地域社会・地球環境との共存共栄～

### ニゴロブナ放流事業へ120万円を寄贈

6月16日、「ニゴロブナ放流事業」を展開している財団法人・滋賀県水産振興協会へ、環境対応型金融商品「カーボンニュートラルローン未来よし」の拠出金120万円を贈呈しました。

これは、琵琶湖の固有種で絶滅危惧種の「ニゴロブナ」の放流・増殖を推進し、琵琶湖の環境を保全してCSRを追求しようとする昨年よりスタートした取り組みで、この拠出金により3万匹のニゴロブナが滋賀県各地の琵琶湖沖で放流されます。



高田頭取（現：会長）から滋賀県水産振興協会の理事長・田口副理事へ  
目録が手渡されました

### 学校ビオトープ今年は5校に助成

長浜市立長浜北小学校・高島市立マキノ北小学校  
安土町立老蘇小学校・県立鳥居本養護学校  
近江兄弟社小学校



高田頭取（現：会長）から目録を贈呈。右から長浜北小学校の川尻雅彦校長、マキノ北小学校の横井正校長、老蘇小学校の飯村悟校長、鳥居本養護学校の堀井和明校長、近江兄弟社小学校の北脇昇校長

「エコプラス定期」による拠出金贈呈式を6月23日に開催、滋賀県内の小学校5校へ「学校ビオトープ」づくりの活動資金として各々50万円を贈呈しました。

贈呈式では、各校長先生がめざすビオトープについて語り、「ホタルの舞うビオトープ」や「地域の方々に守り、憩いの場となるビオトープ」、「ビオトープを通じて食物連鎖の仕組みを学び、自然環境の成り立ちの学習をすすめたい」「生き物への愛情、思いやりの心を育むために活用したい」など、ビオトープを通して子どもたちの心身の成長に期待を膨らませておられました。